

みはま **議** 会 **だ** より

福井県美浜町議会

7号

2011.10.21 発行
福井県美浜町議会

全国交流
レガッタに出艇した
美浜町代表クルー



- 9月定例会 2
- 7月臨時会 6
- 一般質問 7
- 各種委員会報告 10
- 編集後記 12



平成22年度決算を認定

9月定例会 (9月6日～22日)

9月定例会は、9月6日より22日まで17日間の会期で開かれました。平成22年度決算10件を認定し、平成23年度一般会計補正予算など5議案を各常任委員会で審議の上、いずれも原案通り可決しました。また追加された議案についても、原案通り可決しました。

平成22年度決算認定

一般会計決算

《歳入総額》 95億5,338万円 (対前年+12.8%)

《歳出総額》 91億8,383万円 (対前年+13.1%)

○総務費 22億8,268万円

○人件費支出で現職員数は200人であるが、今後の動向は。

○職員数の適正化については、退職・補充のバランスをもって実施している。県から人口比でまだ多いと指導を受けている。今後、計画的に削減していく方向である。

○総務省によると地方分権化を推進する方向であるが、負担が増えると予測されるが対応は可能か。

○人材育成等で効率を上げて対応する。

○民生費 18億3,247万円

○民生費の配食サービス事業だけでなくサービスが行き届いているのか。

○サービスは、事業所と社協により実施してもらっているが、家族やまわりの方に対しての食確保のお願いなどもあわせて対応している。

○はこべの家かぐや姫工場の育苗マトトの売上は順調に伸びているのか。

一般会計の決算状況

(1) 決算収支の状況

(単位：千円、%)

区 分	平成21年度	平成22年度	比 較	
			増減額	増減率
歳 入 総 額 (A)	8,465,616	9,553,378	1,087,762	12.8
歳 出 総 額 (B)	8,120,880	9,183,833	1,062,953	13.1
歳入歳出差引額 (A) - (B) (C)	344,736	369,545	24,809	7.2
翌年度へ繰越すべき財源 (D)	79,437	20,363	△ 59,074	△ 74.4
実 質 収 支 (C) - (D) (E)	265,299	349,182	83,883	31.6
単 年 度 収 支 (F)	△ 84,941	83,883	168,824	△ 198.8
積 立 金 (G)	120,000	400,000	280,000	233.3
繰 上 償 還 金 (H)	0	0	0	0
積 立 金 取 崩 額 (I)	0	0	0	0
実 質 単 年 度 収 支 (F) + (G) + (H) - (I)	35,059	483,883	448,824	1280.2

会 計 別 決 算 状 況

平成22年度

(単位：千円)

会 計 名		最 終 予 算 額	歳 入 総 額	歳 出 総 額	歳入歳出差引額
一 般 会 計		9,731,565	9,553,378	9,183,833	369,545
特 別 会 計	診 療 所 事 業 特 別 会 計	172,077	164,967	164,854	113
	国民健康保険事業特別会計	1,353,664	1,333,263	1,281,203	52,060
	老人医療事業特別会計	9,893	6,022	6,022	0
	後期高齢者医療事業特別会計	115,152	109,532	109,428	104
	介護保険事業特別会計 (介護保険事業勘定)	1,015,569	989,609	943,211	46,398
	介護保険事業特別会計 (介護サービス事業勘定)	6,055	5,764	5,764	0
	簡易水道事業特別会計	150,606	154,189	147,103	7,086
	集落排水処理事業特別会計	245,973	238,954	238,783	171
	公共下水道事業特別会計	486,865	481,657	481,364	293
	小 計	3,555,854	3,483,957	3,377,732	106,225
合 計	13,287,419	13,037,335	12,561,565	475,770	

答 平成20年度4万7千枚、平成21年度11万枚の実績である。22年度はコマリを初め、大手の三菱商事と契約、大幅増加を期待したが、東日本大震災の影響により三菱商事との取引は7万枚となり、22年度の実績は16万枚となった。次年度に期待している。目標は30万枚であり、今後2年以内に達成できるものと見越しており、障がい者の雇用拡大につなげていきたい。

○衛生費 10億5,286万円

○農林水産費 6億2,199万円

問 明日の地域農業を支える担い手条件整備事業において、認定農業者に近い規模の農業者がいるが、県費は別として町費等わずかな補助でもしてあげられないか。

答 そのような方たちには認定農業者になるように勧めている。また、補助の基準を作ることが難しい。農業に限らず漁業や林業もあるわけで、認定農業者と言う基準があるかぎり、それに従ってほしい。

○商工費 1億5,476万円

問 若狭美浜観光PR事業を毎年実施しているが、その都度認証を実施して改善して行かねばマンネリ化におちいるが。

答 各地のイベントに参加して出向宣伝をしている。終了後、課内で反省会をしているが、観光協会とも連携して今後を進めたい。

○土木費 3億8,247万円

問 県単、町単急傾斜地崩落対策事業が行われているが、町内の危険箇所の

状況はどのようになっているか。

答 急傾斜地は日向、早瀬、丹生に多い。中でも日向の浜、東、西地区は、住宅が密集していて危険である。すなわちレッドゾーンと言われる特別警戒区域を優先して取り組んでいる。

○消防費 2億9,316万円

○教育費 19億5,796万円

意見 町民レガッタ事業で町外から参加する交流の部の艇数が増加傾向にある。ひとくくりの部門にするのではなく、町内の同レベルの部門で競えるような工夫と、予選を前日にして宿泊を伴うような大会運営を希望する。

○労働費 3,480万円

○議会費 8,942万円

○公債費 4億8,126万円

特別会計決算

○診療所事業(歳出) 1億6,485万円

問 レイクヒルズ美方病院で検査の際紹介状を持って来院するが、セカンドオピニオンという考えかたで地域医療機関と連携は図れないのか。

答 患者の状況を把握できないと診療および検査は出来ないため、紹介状は最小限必要になってくる。早急に書いてもらえれば直に受診できることもある。

○国民健康保険事業(歳出)

12億8,120万円

問 美浜町の一人当たり医療費は非常に高いが説明を求めたい。

答 一人当たりの医療費は県内で一番。その要因としては受診比率が高く、また費用も高い。しかし近くに医療機関が多いので安心もたらされている。

問 国民健康保険は町独自の算出方法なのか。

答 国保税については平成16年と平成22年に改正している。これは医療費の高騰によるもので、軽減制度もあり町独自の算出方法で行っている。

問 700万を超える不納欠損についてはどのような理由か。

答 行方不明や生活保護に変わったたり、差し押さえ物件がないという場合には、法に基づいて不納欠損扱いとしている。また滞納対策として近年滞納整理機構で取り組み、現在は嶺南地区として取り組んでおり、徴収率も上がっている。

○老人医療事業(歳出) 602万円
○後期高齢者医療事業(歳出) 1億943万円

○介護保険事業(歳出) 9億4,898万円
問 滞納2年で流れるとの説明だが、県下でどれくらいあるのか。また時効が過ぎて徴収不能なものはどれくらいあるのか。

答 県に確認したところ、不納欠損は扱っていないとの事。

問 簡易水道事業(歳出) 1億4,710万円
集落排水の一元化は出来たが、簡易水道の一元化は難しいのか。

答 水道ビジョンを平成19年度に策定し28年に合併の予定。

問 丹生の膜ろ過について財源的にどう考えているのか。

答 当初は3、4号機交付金を当てる予定であったが不透明な状況、来年度改めて交付申請する。

○集落排水処理事業(歳出) 2億3,878万円

○公共下水道事業(歳出) 4億8,136万円

問 公共下水の繋ぎこみの状況はどうか。

答 昨年より1%伸び、78.3%となっている。

問 起債残高について償還はいつまで続くのか。また2億6千万円の償還の原資はどうか。

答 償還は平成51年度まで続き、元金償還は一般会計から繰入れ使用料は利子に充当している。

上水道事業会計

《収益的収支》

水道事業収益 1億3,676万円
水道事業費用 1億7,842万円

※旧水道管理所解体に係る費用を計上

《資本的収支》

資本的収入 9,907万円
資本的支出 1億1,887万円

問 漏水について新しい管の布設替えの計画はどうか。

答 新しい管については耐震管をいれていくが、以前のものについては西郷地区で漏水が多い。調査し管の入れ替えを考えている。

平成23年度一般会計補正予算

○総務費

問 行政情報システム保全等の費用が一般財源から支出されているが、このような費用は将来的に国から交付されると考えてよいのか。

答 交付税に包括されているが個別にいくら入ったかは不明である。

○民生費

問 現在の健康セミナー、お達者会等の活動に参加される人が限られているように思われる。本当に引きこもって出てこれないような人への配慮が必要ではないか。

答 引きこもりになると、介護度が上がる傾向がある。生きがいづくりのためにも、このような方につきましては、民生児童委員、福祉委員、区役員、事務局等が連携し、出てきていただけるように努力している。

○農林水産業費

問 食育、食農教育推進事業とはどのような内容か。

答 小学生を対象に、今後の農業教育をどのようにしていったらよいか、検討委員会を立ち上げた。内容はあぐりん倶楽部、農業委員を中心に構成し、ハートフ

ル体験等を通じて町内の小学生に農家体験、収穫後の試食会等の方法を検討している。

問 商品券の発行をしているが、これらがどこで使われたのかが分かるシステムとなっているのか。

答 プレミアム商品券と並行して抽選券を発行している。大型店はこの抽選券の取り扱いが複雑なため参加していない。

○歳入全般

問 国の交付税が年度当初の予算額に対し、少なくなると言うような状況はあるのか。

答 町の税収に左右される場合があり一概には言えない。また、要求事項それぞれに対していくらと言う事は不明である。

問 歳入の財源確保は重要である。長期的予測をどう考えているか。

答 安心できる情報はなく、長期予測は減少が予測され、財源健全化指数の悪化が予測される。振興計画の一部見直しも視野に入れて推進する。

平成23年度特別会計補正予算

○国民健康保険事業特別会計補正予算

主に電算処理業務委託料
補正額 139万円

○後期高齢者医療事業特別会計補正予算

主に電算システム改修委託料
合計額 13億895万円

○後期高齢者医療事業特別会計補正予算

○教育委員会委員の任命について

追加案件

地方財政の充実、強化を求める
意見書

意見書提出要請

○条例案件
美浜町税条例等の一部改正
(内容) 地方税法等の一部を改
正する法律の施行に伴い、関係
規程を整備するものです。

○介護保険事業特別会計補正予算
主に介護保険システム更新業務
委託料、介護給付費等負担金精
算返還金
補正額 1,979万円
合計額 10億2,348万円

制度対応となっている。



国の後期高齢者医療制度は
高齢者から直接保険金を徴
収する制度であることや名称のこ
ともあり、平成25年3月で廃止の
予定となり、後はもとの健康保険
制度対応となっている。



後期高齢者医療は県で一本
化され3年、全員協議会では
2年で不納欠損となるという話
だったが、これは法律で決まっ
ているとはいえ各市町で話を出し
ていくことも必要と考える。

補正額 105万円
合計額 1億798万円

平成23年度 一般会計9月補正予算概要

予算規模	補正 予算額	467,149千円	補正後 予算総額	8,675,072千円
(参考) 前年同期	補正 予算額	393,164千円	補正後 予算総額	7,507,746千円

◎歳出予算の内訳(主要事項)

(単位:千円)

款	予算額	主要事項	金額	参考
総務費	35,035	庁舎消防設備修繕工事 住民基本台帳ネットワーク システム等改修委託	4,914 25,778	火災報知設備、発電機始動用蓄電池及び避難器具を取り替える。 外国人登録制度の廃止等に伴い、住基システム等を改修する。
民生費	103,249	障害者基本計画・障害福祉 計画策定事業 せせらぎ保育園整備事業 みずうみ保育園整備事業 保育所施設後利用事業 地域支え合い体制づくり事業 介護基盤緊急整備等 特別対策事業 介護保険事業特別会計操出	3,500 10,480 6,971 28,405 14,544 12,905 12,154	本年度を目標年次とする現計画の見直しを行う。 給食備品、設備備品及び事務備品を購入する。 用地測量、地質調査及び不動産鑑定の各業務を委託する。 旧早瀬保育所の解体を行う。(工事、調査・設計、監理等) 要支援者情報の把握、見守りネットワークの構築など体制づくり を促進する。 小規模多機能型居宅介護事業施設の耐震補強工事に対して補助する。 システム改修に要する経費を繰り出す。
農林水産 費	340,417	水田農業活性化事業 有害鳥獣対策事業 基幹水利施設ストック マネジメント事業 県単小規模土地改良事業 (工事費) 町単小規模土地改良事業 県営事業負担金 県単小規模荒廃地治山事業 県単漁港修築事業	19,622 183,834 3,000 9,100 5,570 54,700 10,000 19,200	認定農業者や集落営農組織に対して、機械・施設等の整備費用を 補助する。 山際集落に有害獣侵入防止柵を設置(18.8km)する。 耳川頭首工、幹線水路の長寿命化対策のための調査費の町負担金。 松原外3地区において、農業用排水施設(水門等)の整備を行う。 豪雨被害を受けた菅浜地区農業用排水路外7箇所において復旧工 事等を行う。 ・かんがい排水事業(美浜中央)・農村災害対策整備事業(耳川左岸) ・佐柿地区治山工事(法面保護工)・和田地区治山工事(法面保護工) 坂尻漁港護岸修築工事(消波工)と丹生漁港舗装補修工事を行う。
商工費	7,623	元気な美浜の地域振興 支援事業 源泉給湯施設管理事業	2,835 4,788	わかさ東商工会が行う歳末プレミアム商品券の発行に対して助成 する。 温泉ポンプの保守点検等を行う。
土木費	130,789	道路維持事業 道路新設改良事業 除雪対策事業 河川整備事業 (電源立地地域対策交付金事業) 水路改良工事	51,860 22,869 34,812 8,000 6,000	佐田・山上線等の町道において、緊急を要する箇所の維持補修工 事等を行う。 丹生4号線外2路線において、道路改良等を行う。 除雪作業委託(延長139.7km)、除雪機械借上げ、除雪機械修繕 等を行う。 ・木野川河川整備(ブロック積等)・耳川河床整備 ほか 新庄(馬場地区)水路改良工事
教育費	181,506	生涯学習センター建設事業 美浜・五木ひろしまラソン 準備事業 スポーツ拠点づくり推進事業	-193,299 1,945 4,000	建設工事費及び監理業務委託料の確定等により減額する。 募集要項、ポスター等の作成及びエントリー業務の委託を行う。 全国中学校選抜ボート大会開催に要する経費を実行委員会へ補助 する。
災害 復旧費	26,262	林道施設災害復旧事業	26,262	豪雨被害を受けた栗柄河内谷線(新庄)の路肩崩壊復旧工事を行う。

7月臨時会 (7月14日)

第5回美浜町議会臨時会が7月14日に開かれ、平成23年度一般会計補正予算について慎重に審議し原案通り可決しました。美浜町農業委員に石丸勢津子氏、長谷川美恵子氏、馬野弥裕氏、辻健一郎氏を議会から推薦いたしました。

予算案件

●平成23年度一般会計補正予算(第2号)

沿岸漁業漁村振興構造改善事業として1億1,963万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ82億792万円とするものです。



補助事業：夏定置網体験



美浜2号、40年目の高経年化技術評価 ～関電、町議会に説明～

関西電力は7月25日町議会全員協議会の場で、来年7月に運転開始から40年を迎える美浜発電所2号機(加圧水型・出力50万kw)について、60年間の運転を仮定して行う高経年化技術評価と、評価を踏まえて今後10年間で追加的に実施する保全対策を取りまとめ、国に報告したと説明を受け、その中で「適切に保全活動を継続していくことで40年を経過しても安全運転は可能」と評価したとす一方で、具体的な運転継続期間の明言はありませんでした。

国内では、日本原電敦賀1号機と美浜1号機が40年を超えています。福島第一原子力発電所1号機は40年を超える直前に事故を起こしました。

福島の事故を受け、県は運転30年を超え高経年化(老朽化)したプラントにより厳しい見方を示し、国が新たな安全基準を示さない限り停止中の原発の運転は認めない方針。国のエネルギー政策も大きく見直される可能性があり、美浜2号機の今後の高経年化技術評価に係る国の審査等へも影響が懸念されるようです。

関西電力が国に申請した美浜発電所2号機の40年目の手続きをめぐり、町内には高経年化炉の長期運転に対する不安の声が根強くある一方、議会では「長期運転により最新の技術・より安全な対策を採用した原子炉へ早期にリプレース(置き換え)した方が良い。また廃炉時期と後継機設置に時間差が生じる場合は、雇用や地元経済を守るために、多少の運転延長はやむを得ない」とした見解。

高経年化と新增設に厳しい姿勢を示す野田新首相の下で、国がどんな判断をしているのか、議会としても今後の行方を注視したい。

(副議長記)



美浜発電所

一般質問

9月定例会では4人の議員が一般質問に立ち、町行政の有り方について、問いただきました。質問、返答については質問者の文責で掲載しております。



東日本大震災、東電福島第一発電所事故を受け、美浜町の今後の財源確保の見通しは



原子力発電所の発電量の低下、及び地域経済の低迷は、平成24年度から町民税の減収が予測され、歳出の抑制で健全化を計りたい



辻 健一郎 議員

中長期財政計画と
財政健全化の具体的な方策は

- ①今後の財政の見通しと予想される財源不足の解消策は
- ②収支のバランスをどうみるか



平成12年地方分権一括法、すなわち三位一体の改革であります。各自自治体が真の目的を追求し、地方財政の自立を目指す中、本町では自主財源の中心となる町税が伸び悩むも

の、歳出全体を抑えながら知恵を出し、汗をかきながら「豊かな活気ある夢多きまち」を目標として第四次振興計画に基づくハード・ソフト事業など重点課題施策を充実し、今日まで無難で安全運転で遂行してきました。

しかし、去る3月11日発生の東日本大震災や福島第一発電所事故を受け、財源確保の見通し、あわせて脱原発、或いは脱推進など、将来不透明な点、これら諸々を考慮したとき、今までのような安易な財源確保は厳しい状況にあると考えられます。特に税収から見た本町の産業構造は、電力業の比重が非常に高いのが特徴であります。「一攫千金」的な考えは今後成り立たないと予想されます。そこでこれからは足腰の強い、美浜独自のカラーを出す産業構造改革、いわゆる6次産業化の推進など、また反面歳出面での抑制については過去の慣習にこだわることなく斬新な発想で、予算執行が目的ではなく、成果を上げる最終目的達成のため政策論を重ねながら事業を大胆にスクラップし、補助事業など財源確保に一層の努力が必要と考えます。これからの財源の見通しについておたずねいたします。



平成24年は法人町民税の減収の見込み、また普通交付税の減、景気不安定による一般町民税も伸びず、これらを考えると一般財源分の確

保が難しい。今後は行財政改革の継続と歳出の抑制を図りながら健全な運営を進めなければならぬ。併せて現行の原子力政策の動向を注視していかなければならぬ。

学校・社会体育施設の整備について

- ①東地区プールについて治安・環境、水質保全などの面からも屋根の設置が急務と考えられるが。



平成15年度に東地区にプールが建設されました。年間約600人前後の住民が使用されております。しかし、施設の内容は完全とは言えず、今日まで8年を経過するも、いまだに当初計画すら約束どおりの内容になっていないのが実態であります。環境、水質保全、治安、危機管理などの面からも早急に整備が必要と考えますが現在までの進捗状況をおたずねいたします。



美浜町東地区プール



建設当時の約束事は理解しております。また町の第四次振興計画にも上げてありますので今後の財源確保をみながら計画したい。



竹中 良廣 議員



国民及び政府の一部に脱原発の動向が生まれる中、美浜発電所のリプレイス、定検後の再稼働等、今後の対応は



国の今後のエネルギー基本計画、県の動向等を注視して進めていきたい



国のエネルギー政策に対する対応について

国が「原発依存低減」の方向を示し、国民の多くが脱原発に賛成し、また福井県でも脱原発を提案する市町議会が出てきている。逆風が強まる中、美浜

質 問

9月定例会では4人の議員が一般質問に立ち、町行政の有り方について、伺いました。

発電所のリブレース計画がこのまま頓挫するのではという危機感がある。原子力の必要性とリブレースの必要性を積極的に発信し、国や関係市町にも冷静な議論と対応を働きかけて行くべきと考えるが、町長の今後の対応についてお聞きしたい。

答

エネルギー政策は非常に国民の経済、生活に与える影響が大きいため、あるいは社会情勢に左右されるような、あやふやなものであつてはいけません。国はエネルギーセキュリティ、地球温暖化、それからコストの部分も含めて慎重、冷静に議論を重ねてほしい、我々もそういうことが必要と考える。また、立地町の意思統一、住民の理解を得るといふのは非常に重要であるので、そういうことも含めて行動していきたい。今回の福島原発事態を踏まえても、原子力発電の必要性には変わりはないと考えている。今後、国のエネルギー環境会議の動向を注視しながら、全原協や立地協で、できるだけ早く意思統一をして、国あるいは県に話をして広報していく必要があると考えている。

問

食品、土壌などの放射能測定、検査施設を美浜町で設置してはどうか。

先の福島第一発電所の事故以来、多

くの食品や土壌などに、放射能が検出され発電所周辺は勿論、日本国全体に不安が広がっている。特に食品の安全性を確保するために、牛の全頭検査や米も検査の方向で進められている。また、北陸地方においても米の放射線測定が進められている。こういった検査は、一元的に国や公機関で行うのが普通と思われるが、全国的に数が足りない。特に福井県、嶺南地方では少ない。原子力を推進してきた町として、放射能測定、検査施設を建設し多くの不安を抱えている農業者や漁業者また、消費者の不安解消するため積極的に建設を考えてはどうか。

答

私も、福島での放射能測定が、いろんな方面に及んできたというふうなことで、放射能測定施設は必要と思っているが、美浜町には関西電力の環境モニタリングセンターがあつて、ここでは空気中の放射線量の監視や、土壌、海産物など、いろんな物の放射能測定を行っている。ほかにも日



環境モニタリングポスト

本原電、あるいは日本原子力研究開発機構も、そういう施設を持っており、美浜町内の監視状況は充実していると考える。以上のことから美浜町独自の放射能測定検査施設の建設は現状では考えていない。もし測定範囲の増加が見られれば、関西電力環境モニタリングセンターの内容を充実していただく必要もあるのかと考えている。



松坂 隆司 議員

町の生き残りをかけ、企業誘致をゼロベースで考え、地域の目線で資源・文化・歴史を大切に地域のまちづくりを進めていくべきではないか

問

ゼロベースとはいかないが、県の補助制度等を活用しながら、町の方針をまとめていきたい。ただ大いにそういう方面からの検討も必要であると

答

企業誘致構想を踏まえ、美浜町の将来の方向性について (質問要旨)

将来に向けてローカルファーストの概念が必要。地域の目線で地域を第一に、そして優先的に考え、地域の資源・文化・歴史を大切に、持続可能な地域社会を形成していくという考え。顔の見える関係をもとに、地域のコミュニティエリアの中で「地域の資源」を生かし、「人の営み(人間力)」、「くらしの営み(経済力)」を大切にし、自分達の知恵や手法で地域のまちづくりを進めようという考え方。

美浜町が人口1万人規模の町として「縮小の美学」をきちんと行える戦略を立て、何とか生き残れるものであると考える。この意味は消えてなくなるのではなく、戦力を保持しながら次の戦略に備えるために一時的な撤退を進めることを意味する。

町民全体が覚悟し、議会の思考(戦略)は市民の代表からプロデューサー。町民の思考は客の意識から主体的な行動へ移行する必要がある。町民全員が危機感を持ち将来の方向性を決め、それに向かつて確実にかじを切らなければ明日はない。

町が生き残るために有事に対応するという事を考えていくべきであり、対応しないと町は生き残れない。もう次世代に残すことができないかもしれない

質問、返答については質問者の文責で掲載しております。

という現状に向かい合ってほしいと思っている。

問 企業誘致（他力本願）的な発想を根本的にいま一度見据え、ゼロベースで考える時ではないか？

答 企業誘致も年度で進める必要があると思う。担当課に企業の誘致を重要な政策として検討をしている。関係各課によって、今ある工業団地よりも大きな工業団地を県の補助制度等を活用しながら進めていきたい。企業誘致に関しては年度内ぐらいに町の方針をまとめていきたい。今までのゼロベースでということはないか難しい問題。今は方針として動いているので、これには全部ゼロにしてほしいという思いはない。計画はなし遂げていきたいと思っている。ただ大いにそういう方面からの検討も必要であると考えている。

問 地域資源を活用し1次、2次、3次、土地の所有と利用の分離、資本のグローバル化を考え、農地・海・川・水、これを生かした産業を足元でつくる発想から、そこに投資することが必要。頑張っている町民を応援する必要はないか？

答 一次、二次、三次産業を束ねた産業の六次化として独自の産業も、意欲的に取り組んでいただく団体、

集落があれば、こういう取り組みに対しては町としても支援し、提案をしてみとまれば非常に良いと考えている。



浜野 健治 議員

問 湖、里山、海岸線の環境保全を、町民全体活動として展開したらどうか

答 汚れた環境は組織的に保全を続けると共に、汚染の発生源対策も実施していきたい

問 1. 美しい美浜の環境を守るための保全計画の推進を町民活動として広げたらどうか。
2. 防災道路計画を加速させるための組織作りと、町内公共施設に恒久的な海抜標示をしたらどうか。

答 1. 汚れた環境を保全するだけでなく、汚染源を総合的にとらえて対応していきたい。

2. 防災道路計画は緒についたところであり、県の調査を早める事を申告していきたい。又、公共施設の海抜標示は材質、大きさ等の形態が決まれば実施していく。

問 三方五湖の美浜町に所属する日向湖、久々子湖の水質と、周辺環境の整備はどのように計画して推進しているのか。

答 湖の内水面の保全は全国的な課題。汚染源である未処理の生活排水対策としての下水道整備は比較的早く実現できた。更に農業用排水の富栄養水、枯れ木、土砂の流入等は今後も対策を実施していく。

問 新庄に代表される、里地里山の環境保全はどのように計画し、推進しているのか。

答 荒れた森林の管理も全国的な課題であり、全国町村議会は森林管理直接支払制度や、炭酸ガス削減の森林環境税等を活用して保全を進めている。

問 丹生から日向までの長い海岸線の環境保全をどのように考えているのか。波浪による浸食、漂着物、

不法投棄の汚染は、各集落では手におえない状況になっている。

答 海岸線の白砂青松の復元は大切であり、国は全国町村議会の要請を受けて海岸漂着物処理推進法を設け補助金を県に出している。県は、不法廃棄パトロールや海岸漂着物処理に対する補助をしているが少額で、町では12kmに及ぶ海岸をくまなく実施することはむずかしい。マラソンや海水浴前の砂浜は、適宜シルバーや企業、ボランティアをお願いして実施している。

問 防災道路の計画を目に見える形に早くしてほしい。

答 県は調査（概略設計）を、9月に発注予定であり、新庄から高島を結ぶ道路の調査に予算を計上した。

問 各集落の公共施設に海抜標示をしたら。

答 国、県の基本計画に合わせて実施する。



美しく保全された海岸

各種委員会報告

有害鳥獣対策特別委員会

有害鳥獣対策特別委員会は、8月9日、一日をかけて委員会と視察研修を行いました。委員会の内容は

- (1) 平成23年度、有害獣侵入防止柵設置にかかる集落の選定
- (2) 崩谷(新庄)、御岳山(宮代)の荒廃現地調査
- (3) 海士坂有害鳥獣処理施設について
- (4) 平成23年度有害獣捕獲実績の4件について報告と質疑を行いました。

午後は視察研修で、先ず福井市の猪肉、鹿肉料理を専門に提供している創作料理店「伊呂波」にて昼食をとりました。同店では猪肉、鹿肉はもとより、県産の魚、野菜を組み合わせて地産地消の拡大、有害獣の捕獲促進、農作物被害防止活動を推進しています。



その後、鯖江市河和田東地区の有害獣(イノシシ、熊)対策を視察しました。特徴は「河和田東部、美しい里山の会」を立ち上げ4集落全員が協働で獣害対策に取り組んでいる事です。

(副委員長記)

議会活性化特別委員会

議会活性化委員会では、時代の流れに対応した開かれた議会をめざして全員で協議を重ねています。

8月からは、一般質問の方法について、その内容が行政チャンネルで放映されていることもあり、町民にわかりやすく伝わる様にするため、現在の「一括質問方式」を「一問一答方式」に変える議論をしています。さらに、質問席を理事者側と対面して行おうとしています。

9月14日には、既にこの方式を採用している若狭町の一般質問の様子を議会運営委員及び議会活性化特別委員の代表で傍聴してきました。

この方式で一般質問を実施するには

質問席、カメラの設置場所及び録音方法等、議場内の設備を少し改造する必要がある、その内容を議会運営委員会に諮問しています。この方法での一般質問を来年3月定例会から開始できるように準備しております。

(副委員長記)

委員長・副委員長研修会について

8月5日福井県自治会館に於いて『議会委員長・副委員長研修会』が開催され、其々の任務をお受けしている議員全員が参加させて頂きました。議員研修会は毎年春と秋に開催されておりますが、今年は特別に同研修会が開催されました。住民の方たちの付託により応えるべく、ここ近年の各市町での議会活性化の取組をリード・後押しする意味合いがあり、有意義な研修会でした。美浜町でも議会活性化の取組が進んでおり、より充実した議会運営・活動を目指してまいります。皆様方のご意見・ご協力をお願い申し上げます。

(兵庫記)

敦賀美方消防組合議会報告

〔救急車更新配備〕

同組合議会は8月22日の臨時議会に

於いて災害対応特殊救急自動車購入の契約を承認しました。これは、美浜消防配備の救急車の老朽化に伴い更新配備されるもので3千2百万円(税込み)です。最新の救急医療装備を搭載したすばらしいもので、高価な数少ない車両です。町民の命と健康の綱です。今後とも救急車の利用マナーを守って頂いて有効活用できますようご協力をお願い致します。

(組合代表議員)

自衛消防隊操法大会に参加



8月28日に美浜消防署の訓練場で第17回美浜地区自衛消防隊操法大会が開催され、組合議員全員で参加させて頂きました。

『自分達の地域は自分達で守る』各集落・職域の方たちのチームが多数参加されました。大震災のあとでもあり、参加者の真剣な動きに感動しました。最近集落の参加チームが減少しております。大会の趣旨をご理解いただき、来年は是非より多くのチームのご参加

をご期待申し上げます。

(組合代表議員)

総務文教常任委員会 研修会

総務・文教
常任委員会で
は8月23、24
日の両日、視
察研修を行い
ました。

視察目的は地
方分権に関す
る全国的な動
向と、今後の
対応について
国の中枢から
最も新しい情
報を直接聞き取る事としました。



第一日目は、国会議事堂が目の前に見える国会議員会館の内部見学と、同会館会議室で講義をお聞きました。講師は総務省自治行政局行政課理事官植田昌也氏、テーマは「地方分権推進に伴う基礎自治体の有り方」で内容は、

(1) 地方自治制度の見直しについて、主にその目的と自治体の進捗状況
(2) 地域主権改革の内容について、主に総務省内での決定の経緯
を説明して頂き、質問に答えてもらい

ました。

第二日目は、警視庁の内部見学で東京の治安を守る警視庁の概要説明とこれまでの歴史についての説明をお聞きして、二日間の有意義な視察研修を終えました。

(副委員長記)

原子力発電所特別委員会

原子力発電所特別委員会は東京電力福島第一発電所の事故を受け、関西電力(株)、(独)日本原子力研究開発機構及び原子力安全・保安院からの経過報告を都度聴取して委員会を開催しています。

7月6日は最初に関西電力(株)美浜発電所から、美浜発電所の近況について説明を受けました。特別点検の内容について説明を受けたのち、質疑に入り格納容器内のスプレリングの内容、夏場の計画停電の状況予測、設備配管の耐震対策及び、外部電源確保の対応等について内容を確認しました。

続いて(独)日本原子力研究開発機構から
(1) もんじゅの安全性向上対策
(2) 炉内中継装置の一体引き抜き作業
(3) 非常用ディーゼル発電機C号機シリ
ンダーライナーのひび割れについて

(4) 屋外排気ダクト取替工事の状況

(5) 水・蒸気系設備機能試験の状況

について説明を受け、質疑・回答を行いました。

7月25日には全員協議会で経産省原子力安全・保安院から「発電用原子炉施設の安全性に関する総合的評価」の説明を受けました。そして関西電力(株)美浜発電所から「美浜発電所2号機、高経年化技術評価と長期保守管理方針について」の説明を受けました。しかしながら、美浜発電所の定検後の再稼働及び、リプレースの課題についての進捗は有りませんでした。

9月12日午後2時より委員会を開催しました。ここで「国の原子力政策に対する意見書の提出について」協議を行いました。これは全国の原子力立地の市町が意見書提出についての動きがある中、美浜町議会としての意見書提出を提案するか、原子力発電所特別委員会として国に要望書を提出するかの協議を行いました。いろんな意見が出て協議した結果、国の原子力政策に対する意見書は提出せず、立地町議会として地域住民の思いを伝えるため、美浜町議会原子力発電所特別委員会として要望活動を行うとして調整に入ることを確認して委員会を閉会しました。

(委員記)

産業厚生常任委員会 視察研修

今回の産業厚生常任委員会の視察研修目的はレインボーラインの今後のあり方、更に地場産業の活性化、また農業の先進地の実状等を見学し学ぶ目的であった。奥琵琶湖パークウェイにおいては現在無料化になっている現状を見、道路管理の優先性からも外れ、観光スポットとしての知名度が低くなっていったと考えられる。また塩津の道の駅「あぢかまの里」は地場産業である農産品の付加価値を上げるべく直販等は繁盛している。



あぢかまの里

これは当然交通量が多い事もあるが参考になると思われた。次に訪れた桑名市、長島町は大農地にもかかわらず後継者不足で我が町同様厳しい状況であると感じた。また蒲郡市の三ヶ根山スカイライン山頂からの三河湾沿いの整然とした大企業の立地状況を見、大企業の誘致が出来たら素晴らしいだろうなと感じた一瞬でもあった。

(副委員長記)

議会の動き

7月4日	町議会議員研修(福井市)
5日	公立小浜病院組合議会(小浜市)
6日	原子力発電所特別委員会
11日	福井県原電所在地議会特別委員会連絡協議会(敦賀市)
14日	議会運営委員会 第5回町議会臨時会
15日	関西電力原子力発電所立地町議会連絡協議会
22日	福井県原電所在地議会特別委員会連絡協議会(美浜町)
25日	全員協議会 議会運営委員会
8月1~2日	産業厚生常任委員会視察研修(愛知県)
5日	委員長・副委員長研修(福井市)
9日	有害鳥獣対策特別委員会視察(鯖江市)
12日	関西電力原子力発電所立地町議会連絡協議会(おおい町)
21日	つばた町民レガッタ参加(石川県)
22日	敦賀美方消防組合議会視察(敦賀市)
23日	総務文教常任委員会視察研修(東京都)
25~26日	敦賀美方消防組合議員視察(愛知県)
28日	美浜地区自衛消防団操法大会参加
29日	議会運営委員会・町長との意見交換会
30日	公立小浜病院組合議会
9月4日	美浜中学校体育祭
6日	第6回町議会定例会本会議 全員協議会
7日	舞鶴若狭自動車道美浜工事安全祈願祭 全員協議会
8日	全員協議会
9日	一般質問
12日	原子力発電所特別委員会
13日	総務文教常任委員会
15日	産業厚生常任委員会
16日	全員協議会
22日	全員協議会・本会議
24~25日	第20回全国市町村交流レガッタ豊岡大会
26日	議会運営委員会
30日	議長・副議長研修(福井市)

美浜町、
企業誘致会社の
運営状況報告会

9月16日、全員協議会が開催され、過去に企業誘致した株式会社フェアリープラントテクノロジー社、株式会社エアーグリーン社の2社の運営状況報告会が個別に行われた。

株式会社フェアリープラントテクノロジーについては、当初計画が一時、設備及び流通経路の関係で課題が有り、工場を停止し、設備の整備、改造を実施して更に、経営者を一本化して再出発の準備をしている説明があった。

株式会社エアーグリーンについては、社長が交替し、経営上負荷となっていた資産及び、長期在庫を特別損失として整理し、今後も事業継続し町内からの雇用増も計れるとの説明があった。

議員からは両社に、当初計画の変更については、都度説明をして頂く事と、中期計画の精度を上げて経営状態を安定させるよう要請をした。

(副議長記)

つばた町民レガッタ、
全国市町村交流レガッタ豊岡大会に参加

8月21日に石川県津幡漕艇競技場で開催された、つばた町民レガッタ議会議員の部で優勝しました。9月24日~25日にかけて、兵庫県豊岡市において第20回全国市町村交流レガッタがあり、議会も町民の代表5クルーと参加しました。Aチームは議会議員シニアの部に、Bチームは議会議員の部に出場。Bチームは3位入賞しました。成年女子の部の「にかほっか国吉」の2着を筆頭に優勝は逃しましたが、ほとんどが上位に入りました。



(藤本記)

編集後記



老人スポーツ大会にて

福島原発事故以来、国からの節電要請に応じ、企業や一般家庭で様々な省エネ対策が行われました。そのため今夏の暑さは例年に比べ一段と厳しく感じられました。その残暑の中、始まった九月定例会。会期中に催された美浜中体育祭で生徒のみならず、一生懸命に取り組む姿に元気をもらいました。九月定例会の審議内容の主なものは決算認定と補正予算でした。東北震災や原発事故等で国からの交付金削減が予測される中、無駄をなくし健全な財政運営が維持されるように議会としても頑張ります。

(委員長記)

美浜町議会広報特別委員会

【委員長】 樋下 伸嗣 【副委員長】 山口 和治

【委員】 松坂 隆司・浜野 健治・藤本 悟・兵庫 賢一